



北海道発！ 隔離施設と転換畑でそだった健全ないちご苗

概要 Abstract

空知地方では、水田転換畑を利用したリレー苗方式（委託元から親苗送付→増殖→委託元へ出荷）でいちご苗を生産し、道外へ出荷していましたが、この方式では病害に感染した親株の持ち込みリスク、苗伝染性病害の発生リスクが残り、いちご苗生産を拡大していく上での阻害要因となっていました。

このため、JAそらち南では、独自で健全な原苗を確保し、専用の隔離施設と水田転換畑で徹底した病害虫管理を行って苗を増殖することで、可能な限り無病に近い苗生産を目指す新しい取り組みを開始しました。本研究ではこの新しい方式について、生産の各段階での重要病害感染リスクを検証しました。

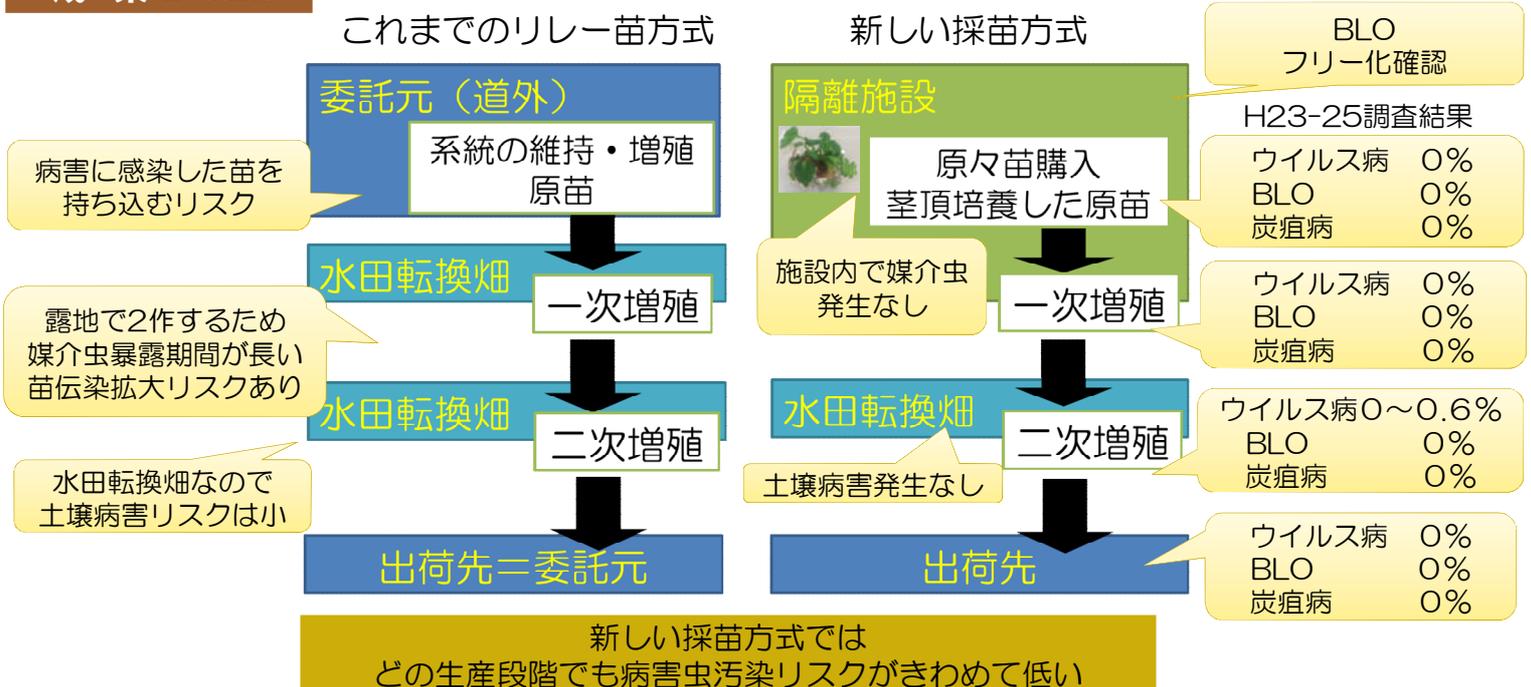
この結果、新しい採苗方式では、病害虫感染リスクがきわめて小さいことが示されました。実際に生産された苗もきれいな苗が得られており、高品質・安定生産で生産拡大が目指せます。

北海道の強み！ 炭疽病がない	水田転換畑の強み！ 土壌病害がない
さらに！ 原苗の確保と隔離施設で管理	



JAそらち南苺苗部会の皆さん

成果 Results



普及 Dissemination

水田転換畑を有する地域で、高度に健全ないちご苗の安定生産が可能になります。

連絡先 Contact

中央農業試験場 病虫部 予察診断グループ
0123-89-2290
notsu-ayumi@hro.or.jp